

今、キャンパスで求められる環境マネジメントとは？

岡山大学環境管理センター
センター長 沖 陽子

2010年の春は桜の開花期間が長く、花見が十分に楽しめましたが、肌寒かった梅雨が明けて後、夏は記録的な猛暑となりました。6月～8月の日本の平均気温は統計を始めた1898年以降で最も高かったと報告されていますが、その異常な暑さは秋まで続きました。熱中症が全国的に恐れられました。局地的に発生する1時間50ミリ以上あるいは80ミリ以上の「ゲリラ豪雨」の発生頻度が増加し、洪水などの自然災害も日本各地で生じました。我々は五官で異常気象を感じると共に、近未来の環境異変にどう対応すべきかを考えさせられました。

異常気象と地球温暖化との因果関係はいまだ解明されていませんが、2009年9月、日本は2020年までに温室効果ガスを1990年比で25%削減することを世界に公言しました。その責任を果たすために、具体的な地球温暖化防止対策や省エネ対策がグローバルからローカルに至るまで模索されています。「グローカル」という造語もできています。

さて、岡大キャンパスにはどのようなシナリオが描かれているのでしょうか。本学の「環境方針」では基本理念と基本方針が示されており、事業活動において、①省エネルギーの推進、②地球温暖化対策、③省資源対策、④廃棄物の減量化・再資源化および有害廃棄物の適正処理、⑤グリーン購入の推進、⑥化学物質の管理徹底等の項目が重点テーマとして取り上げられています。これらの事業活動に関わる環境負荷の中で2004年度を基準として、2009年度の削減目標値が未達成であったのは、エネルギー使用量とCO₂排出量でした。

そこで、環境管理センターではサステイナブル・キャンパスを目指して、大学構成員へ意識啓発を求めて始動しています。本年度の公開シンポジウムでは「地域の自然エネルギー活用と地方の活性化」について発信しました。夏には座主川で小水力発電の試行を実施しました。「環境報告書2010」のダイジェスト版の発行とアンケート調査を実施し、来年度からセンター主導の教養教育科目を開講する予定です。サステイナブル・セミナーもキック・オフです。これから、センター報である「環境制御」等を通して、皆様方に随時、キャンパス内の環境マネジメントについて発信致しますので、ご理解と御協力を御願い申し上げます。